

## JSPSボン研究連絡センター 2013 年度第 1 四半期活動報告 (2013 年 4 月～6 月)

### < 目 次 >

|                                  |      |
|----------------------------------|------|
| 1 2013 年 4 月～6 月の主な活動            | …p 1 |
| (1)第 18 回日独学術シンポジウムを開催           |      |
| (2)留学等促進行事“Study World“に参加       |      |
| (3)JSPS サマー・プログラム プレオリエンテーションを開催 |      |
| (4)ボン大学主催留学フェアに参加                |      |
| (5)アレクサンダー・フォン・フンボルト財団年次総会に出席    |      |
| 2 2013 年 7 月以降の主な行事予定            | …p6  |
| 3 関係機関について                       | …p6  |
| 4 センター長雑感                        | …p6  |

### 1 2013 年 4 月～6 月の主な活動

#### (1) 第 18 回日独学術シンポジウムを開催

日時: 2013 年 4 月 26～27 日

場所:国際交流基金ケルン日本文化会館 (ケルン市)

ボン研究連絡センターは、毎年、JSPS ドイツ語圏同窓会との共催で日独学術シンポジウムを開催している。18 回目となる本年は“Art and Science“をテーマとして、4 月 26、27 日にドイツ中西部のケルン市で開催した。当日は同窓会員を中心として、200 人を超える参加者が集まった。

シンポジウムでは、加藤 JSPS 国際事業部長の開会挨拶に始まり、メンクハウス同窓会長と小井沼在デュッセルドルフ総領事からご挨拶を賜った。

引き続き、美術史的観点による研究、双方向のデジタルメディアを使った作品についての講演、認知神経科学に基づく北斎漫画、東アジアの陶磁器に関する講演等、多彩な観点から、日独計 8 名の研究者やキュレーター、アーティストによる講演が、26 日午後と 27 日午前の昼まで行われた。マインツ市在住のドイツ人尺八奏者による演奏も行われ、好評であった。

また、この機会に JSPS ドイツ同窓会により、ドイツ語圏と日本の間の学术交流や協力、ネットワーク構築に際立った貢献があった研究者に対する賞が創設された。初日の講演に続いて授賞式が行われ、ドイツで研究活動を行っている日本人研究者を含む 2 名に同窓会から賞が授与された。講演終了後の 27 日の午後は、シンポジウム会場に隣接する東アジア博物館への見学ツアーが行われた。



会場のケルン日本文化会館の前で



加藤久国際事業部長の開会挨拶

## (2) 留学等促進行事“Study World”に参加

日時: 2013 年 5 月 3-4 日

場所: ロシア科学文化会館 (Russisches Haus der Wissenschaft und Kultur) (ベルリン市)

ドイツ連邦教育研究省 (BMBF) とドイツ学術交流会 (DAAD) の協力・支援により、第 8 回 Study World 2013 が開催され、大川副センター長が参加・視察した。Study World は 2006 年に始まり今年で 8 回目の開催となる、ドイツで最大規模の留学フェアである。欧州各国、ロシア、米国、日本等の各大学や DAAD などの学術振興機関等によるブース展示・相談対応と、これらの大学・機関によるセミナーや概要説明が同時並行で行われた。

日本の機関としては、在ドイツ日本大使館が日本留学の総合案内のためのブースを設け、来訪した学生の相談に対応するとともに、JSPS、日本の各大学、日本学生支援機構、日本学術振興会、国費留学の概要等の資料を展示・紹介した。日本の大学としては、早稲田大学が同大学を含むグローバル 30 のブースを、また名古屋大学と立命館アジア太平洋大学がそれぞれブースを設置し、相談・説明を行った。主な参加者は、ドイツ全国の大学学部生、大学院生、高等学校最終学年、若手社会人などで、外国留学に関する情報を得られる機会となった。

訪れた学生は、高校生から学部生が中心であった。日本大使館のブースを訪問する研究者志望者は多くはなかったが、非常に熱心に説明を聞き、JSPS の資料を持ち帰っていた。JSPS は日本大使館の協力を得て、来年以降も資料を展示・配布することとしたい。なお、出展した世界各国の大学の規模や特徴は、多種多様であった。



日本大使館のブース (JSPS の資料も配布)



会場内の様子

## &lt;関連 URL&gt;

Study World ウェブサイト

<http://www.studyworld2013.com/>**(3) JSPS サマー・プログラム プレオリエンテーションを開催**

日時: 2013 年 5 月 8 日

場所: グスタフ・シュトレゼマン・インスティテュート(ボン市)

当センターの主催により、JSPS サマープログラム参加者を対象として、日本出発前のプレオリエンテーションを開催した。ドイツから今年のサマープログラムに参加する 19 名のうち、16 名が出席した。今年の参加者数 19 名はこれまでの最多となる。

オリエンテーションでは、小平センター長の開会挨拶に始まり、DAAD の Dr. Ursula Toyka 課長による DAAD 概要説明、JSPS 人物交流課の佐藤職員によるサマープログラムの概要説明、大川副センター長によるサマープログラム参加後に応募可能な JSPS フェローシップの紹介、ボンセンターの Schulze 職員による各種注意事項の説明が行われた。

オリエンテーション後半では、Forschungszentrum Jülich (ユーリッヒ研究所) 所属の Mr. Georg Schendzielorz と、Bochum University (ボッフム大学) 所属の Ms. Nina Holzschneider の 2 名が、昨年のサマープログラム参加者として経験談を語った。続いてドイツ語圏 JSPS 同窓会役員の Ms. Sabine Ganter-Richter による同窓会の紹介が行われた。

最後の質疑応答のセッションでは、日本での研究環境に関する質問のほか、銀行 ATM の利用方法やユーロ・円の両替方法をはじめとする生活面の質問が出され、サマープログラム経験者、同窓会長、同窓会役員などが的確な助言を与えていた。その後の夕食会でも活発な情報交換が行われ、参加者同士の親睦を深めた。



サマープログラム参加者と発表者等



小平センター長の開会挨拶

#### (4) ボン大学主催留学フェアに参加

日時：2013 年 5 月 29 日（水）

場所：ボン大学（ボン市）

ボン大学主催の留学フェア「AUSLANDSSTUDIENMESSE」が開催され、当センターから大川副センター長、Schulze 職員、徳野国際協力員、高橋国際協力員が参加した。各国の関係機関など 40 機関が出展し、各ブースにて来場者に対して留学や国外インターンシップに関する情報を提供した。今年は独仏間で締結されたエリゼ条約 50 周年を記念してフランスを中心とする特別プログラムが組まれていた。日本からは JSPS のほか、ボン市内に事務所を設置している早稲田大学及び筑波大学が参加した。

JSPS のブースではフェローシップの概要やサマープログラムのパンフレット等、例年学部学生への参加が多いことを考慮し、修士課程以下の学生にも比較的提供しやすい冊子、パンフレットを陳列した。

ブースでの情報提供と並行して、ボン大学内の別会場において、各国への留学やインターンシップ等に関する情報を提供する講演が行われた。日本については早稲田大学ヨーロッパセンターが同大及びグローバル 30 について、また筑波大学が同大学の紹介発表を行った。（この別会場での講演の一部概要については別添のとおり。）

例年の状況から予想されていたとおり、来場者の半数以上がフェローシップの対象とならない学部学生ではあったものの、サマープログラムなど近い将来参加可能なプログラムに関心を示し、これらのパンフレットを持ち帰る学生は多かった。このほか、日本の大学全般の情報を求めている学生に隣接する早稲田大学等のブースを案内したり、日本留学のための奨学金については国費奨学金のドイツ国内での申請窓口となっている DAAD や、日本への短期留学向けの奨学金を提供している日本学生支援機構のウェブサイトを紹介するなど、要望に対応した情報の提供を行った。

各ブースではお菓子や記念品を提供したり、途中でダンスが披露されるなど、全体として楽しく親しみやすい雰囲気であった。

このほか別室で行われた説明会のうち、以下について視察した。

#### 1) ストラスブール大学への留学に関する説明

フランス・ストラスブール大学への留学に関し、同大学より約 15 分間、概要説明が行われた。

#### 2) エラスムスによる海外留学とインターンシップの説明

約 30 分間の概要説明が行われた。3 か月から 12 か月の期間、EU 加盟国とアイスランド、ノルウェー、スイス、リヒテンシュタイン、トルコにおける留学またはインターンシップが可能で、奨学金または報酬が支給される。

#### 3) オーストラリア留学の説明

”GOstralia”(ドイツにあるオーストラリア留学促進機関)によるオーストラリア留学の概要説明と、Griffith University (シドニー) 留学の概要説明が合わせて約 30 分間行われた。

#### 4) 早稲田大学、筑波大学、グローバル 30 の概要説明

各 10 分ずつ概要説明が行われた。(グローバル 30 については早稲田大学ヨーロッパセンターが説明。) 早稲田大学と筑波大学は、ボン大学と学生交流協定を締結しているとのことである。



JSPS ボン研究連絡センターのブース



会場の様子

#### (5) アレクサンダー・フォン・フンボルト財団年次総会に出席

6 月 5～6 日、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団 (AvH) の年次総会がベルリンで開催され、当センターから小平センター長が出席した。総会には、AvH のフェローシップを受けてドイツに研究滞在しているフンボルト・フェロー 600 人近くが招かれた。

総会において、6 月 6 日、フィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞の授賞式が行われ、ガウク大統領から東京大学の石原あえか准教授に授与された。フィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞は、日本とドイツの学術交流に貢献し、学問上すぐれた業績をあげた日本人研究者に贈られる賞で、1979 年より毎年 1 名が

受賞している。授賞式にはガウク・ドイツ連邦共和国大統領夫妻、中根在独日本国大使、シュヴァルト・フンボルト財団会長夫妻ほか、ドイツ政府関係者らも列席した。石原氏は大統領への謝辞の中で、JSPS の特別研究員、海外特別研究員に採用されるなど、本会に育てられ励まされてきた旨を強調された。

引き続き、大統領公邸内の庭園において、総会の全参加者と同伴家族を対象に大統領主催のレセプションが開かれた。総会の最後にフンボルト財団研究賞の授与式が開催され、計 26 名に授与された。また、今回新たに経済開発担当省から、開発研究賞が 4 名に贈られた。

<関連 URL>

AvH ウェブサイト

<http://www.humboldt-foundation.de/web/press-release-2012-18.html>

## 2 2013 年 7 月以降の主な行事予定

- |               |                                                               |
|---------------|---------------------------------------------------------------|
| 10 月 7 日(月)   | JSPS ボン研究連絡センター年次活動報告会“JSPS Abend“ (於ボン)                      |
| 11 月 15 日(金)  | JSPS 事業等渡日プログラムの紹介 “Forschung und Studium in Japan“ (於フライブルク) |
| 11 月 15 日(金)  | 「会員による会員の招待」(於フライブルク)                                         |
| ～11 月 16 日(土) |                                                               |
| 11 月 16 日(土)  | ジュニア・フォーラム(於フライブルク)                                           |
| 1 月 15-17 日   | 日独学術コロキウム(於ハイデルベルク)                                           |

## 3 関係機関について

4 月 23 日のライブニッツ協会幹部会において、前 DFG 会長の Matias Kleiner 教授が次期ライブニッツ協会会長に内定し、11 月の総会で承認される予定である。

## 4 センター長雑感

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議の際に JSPS 推薦の 10 人余の参加者のために福井副大臣主催の昼食会があり、私もご相伴に与った。若い人たちにとって、政府高官と触れ合える機会を持てて名誉もあり、率直に意見も言えて、有意義な昼食会であったと思う。

フンボルト財団の年会では、在独フンボルト・フェロー600 人近くを連邦大統領公邸の庭園に招いて、大統領が挨拶し、皆と触れ合うのを恒例としている。JSPS のサマー・プログラムで先進 5 カ国から 100 人以上の若い研究者が、葉山でオリエンテーション・ウィークを過ごす時などに、葉山御用邸にご静養に

来られる両陛下が、非公式でも、一研究者として皆に語りかけて頂けたら素晴らしいであろう、と密かに夢見ている。

今年のリンダウの JSPS 推薦参加者が男性ばかりだったのには、いささか唖然とした。日本も関係の深いヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム推薦の全世界からの参加者は、男女半々であった。何とか工夫できないものか。この両グループの参加者の平均研究者キャリアは比較的高く、ポストドクが大半を占めていた。リンダウ会議は、もともとは受賞者が集まって学術理念を論じ、場合によっては学術施策提案を発信する場であった。学生が傍聴を許されたのを契機に、対話も行う形式になり、数年前からは全世界から参加学生を募って、600 人を越える参加者が集まるお祭り行事となり、サマー・スクール化してしまった。ボーデン湖に浮かぶ小さなリンダウの島は、人で溢れる。ここに参加して刺激を受けるには、ポストドクよりも修士課程学生くらいが向いているのではないだろうか。

また、各国から推薦される学生集団に同行して来る政府関係者らの外交の場にもなっていて、加熱気味なのが気になる。ノーベル賞は努力の結果与えられるものであって、政府が目標を定めて、若い人達は賞を取るために研究するというのでは、本末転倒と言わざるをえない。7 月になって、博士課程参加者の一人から「リンダウに行って、自分の研究態度を見直すことにしました」と便りがあった。きっと、受賞者と直接に会い良い話ができただろう。(2013 年 7 月 10 日)

ぼんぼん時計第 40 号  
日本学術振興会ボン研究連絡センター  
JSPS Bonn Office  
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)  
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)  
Phone +49(0)228-375050 Fax +49(0)228-957777  
www.jsps-bonn.de